

菊地トクさん

中央町二丁目



面倒見がよく働き者
男踊りが得意

明治45年
3月22日

Kikuchi Toku

トクさんは昭和11年に喜一さんと結婚。子が2人、孫が4人、ひ孫が5人います。

気が強くて面倒見がよく、自宅で下宿を営むなど働き者のトクさん。以前はよく温泉に通っていました。男踊りを得意としていて、民謡を歌います。自転車に詳しく、自営の輪業を進んで手伝いました。甘いものが好きです。

藤丸ミユキさん

大東町大原

お神楽踊りが好き
散歩と草取りで元気

明治45年
4月25日



Fujimaru Miyuki

ミユキさんは大東町曾慶の出身。昭和7年に菊之進さんと結婚。子4人、孫が11人、ひ孫が19人います。

手が器用で裁縫が得意。お神楽が好きでよく歌や踊りを披露していたそう。今は、主にテレビを見て過ごし、天気の良い日は散歩や草取りを行います。長寿の秘けつは何でも食べることです。

重ねた歲月 刻んだ年輪

100歳の誕生日を迎えた2人を紹介します。

百年目の寿

CONGRATULATIONS

農水省の「食と地域の『絆』づくり」
京津畑自治会が県内唯一の優良事例に



勝部市長(左)に選定を報告した(右)二人目から菊池会長、懸田支配人、伊東副会長

京津畑自治会(菊池建会長、54世帯)は、農林水産省が農林水産業と農山漁村の活力再生を目的に全国の地域活性化の先進事例を選定する「食と地域の『絆』づくり」優良事例に選ばれました。

同自治会は、千人以上が訪れる「食の文化祭」や「京津畑交流館山がっこ」を拠点にグリーンツーリズムを展開。食文化などを通じた地域おこしが評価されました。

菊池会長、伊東光浩副会長と山がっこの懸田等支配人は4月17日、市役所を訪れ、勝部修市長に選定を報告しました。菊池会長は「これまでの取り組みが評価された。食を通して地域の元気を発信していきたい」と意欲を見せていました。

東日本大震災における貢献者表彰
室根・大東から2団体が受賞



勝部市長(左)に受賞を報告した松山会長(右)と菅原会長(中)

室根町自治会連合会(松山昭雄会長)と大東町の大原自治公民館等連合会(菅原五三男会長)は公益財団法人社会貢献支援団体(東京都港区)の平成24年度年度社会貢献者表彰「東日本大震災における貢献者表彰」を受賞しました。松山会長と菅原会長は5月16日、市役所を訪れ、勝部修市長に受賞を報告しました。

両団体は、隣接する気仙沼市、陸前高田市へ食糧支援・入浴支援を継続して行いました。松山会長は「当たり前のことをしただけ。地域内での協力があっての受賞」、菅原会長は「お互いさまの気持ちで行った。みんな大変な中でよくやってくれた」と話していました。



看護業務功労 元県立南光病院総看護師長

菊地清人さん

さくち・きよと 68 関が丘

1965年から県内の精神科病院に39年間勤務、心の病を抱える人に寄り添う看護に力を注ぎました。「精神疾患は目に見えにくい部分が多い。患者と接するときは言葉と言葉のやり取り、コミュニケーションを大事にしてきた」と振り返ります。

退職間際の2年間は、総看護師長として現在の南光病院の計画・設計に携わりました。

受章にあたり「これまで多くの人たちとの関わりがあり、その中で育ててもらった。家族や職場の同僚の支えがあったからこそ」と話していました。



消防功労 元市消防団分団長

亀卦川勝夫さん

きげがわ・かつお 74 千厩町

1960年千厩町消防団に入団。部長、副分団長などを経て04年分団長に就任、合併後も市消防団の分団長として活躍。06年に退団するまで46年間にわたり、地域の安全・安心のために尽力しました。

入団当時は、人力が主だった時代。リヤカーでポンプを運んだこともあったそうです。消火よりも火を出さない「防火」に力を注ぎました。

「受章は先輩、同僚、後輩の協力和家族の理解があったからこそ」と感謝していました。



消防功労 元藤沢町消防団分団長

及川征紀さん

おいかわ・せいき 70 藤沢町

1961年藤沢町消防団に入団。97年から分団長を務め、03年に退団するまで42年にわたり、地域防災と災害対応に尽力しました。

「人命・財産を守ることが消防団の使命」と強い信念で活動。02年7月の台風6号による大雨洪水災害の際は3日間、身を置いて徹夜の作業を行いました。

受章にあたり「先輩、団員や地域の皆さんの協力で長年務めることができた。共に頑張ってきた仲間を代表としての受賞だと思っている」と感謝していました。



消防功労 元一関市消防本部消防監

小岩喜久雄さん

こいわ・きくお 66 千厩町

1966年千厩町消防団常備部団員に。72年の両警地区消防組合発足時に身分を移行。以後、同組合千厩消防署長、市消防本部防災安全対策監を歴任し、07年に定年退職しました。常に住民の安全を考え、率先して現場に出動。昼夜を問わず消防・救助活動に尽力しました。「異動するたびに大きな災害に遭遇した」と振り返ります。

受章にあたり「自分だけの功績ではない。本来は先輩、同僚やみんなでもらうべきもの。震災で多くの人が犠牲になった中で申し訳ない」と話していました。



消防功労 元一関市消防本部消防監

金野達夫さん

こんの・たつお 65 萩荘

1966年旧一関市消防本部入り。両警地区消防組合移行後は千厩消防署副所長、消防本部総務課長、合併後の一関市消防本部総務課長などを歴任し、08年に定年退職しました。

一関消防署庶務係長時代から消防団屯所の環境整備、消防団員の処遇改善に尽力。また、大規模災害に備えた防災設備の充実、非常用食糧などの配備を推進しました。

受章にあたり「身に余る光栄。先輩、同僚や消防団員など多くの人の支えがあったから」と話していました。

